

未曾有の災害から復旧・復興を果たすには、効率的な災害復旧の実施が急がれた。

そこで市は、8月20日、公共土木施設・農地・農業用施設、林業施設等の復旧事業を統括し、事業を迅速に進めるために「土木災害復旧室」を新たに設置した。

「土木災害復旧室」は、福岡県ほか多くの自治体からの応援を受け、約2,600カ所を超える災害復旧事業を本格化させた。

土木災害復旧室の設置

災害から復旧復興し、市民が安定した生活を送るためには、まちづくりの基盤である公共土木施設の早急な復旧が求められた。市は7月14日の災害発生に伴い本庁、支所が一体となった災害復旧班を編成し、被害状況の把握と応急工事を実施してきたが、復旧復興をよりいっそう加速させ、効率的に遂行するため、8月20日、建設経済部に「土木災害復旧室」を新設した。

「土木災害復旧室」には災害総務係、公災係、農災係、林災係を設けて30人の職員を配置するとともに、福岡県及び各市から13名の派遣を受けて43名で災害復旧業務にあたった。他の自治体からは、平成24年度延べ33人（福岡県、福岡市、北九州市、大牟田市、大野城市、大川市、筑後市）、平成25年度延べ18人、平成26年度延べ8人（ともに福岡県、福岡市、北九州市）の派遣を受けた。

災害査定

「土木災害復旧室」は、早期復旧に向けて被害箇所の現地調査及び測量を行い、査定設計書を作成して災害査定を受けた。

災害査定の結果、市が管轄する公共土木施設（河川・道路・橋梁）の復旧事業は609カ所、農地・農業用施設464カ所、林道施設63カ所、合計1,136カ所に及び、これらの事業費は93・4億円となった（P124参照）。

査定後、「八女市土木災害復旧事業工事発注調整会議」を定期的に開いて計画的に工事を発注していくこととした。また復旧事業は平成27年度まで4カ年で行う計画を立てた。

この他県が八女市で行う復旧事業は、河川118カ所、道路95カ所、砂防20カ所、総事業費22.8億円となった（P124参照）。事業を実施するにあたっては、市の復旧事業と国・県の復旧事業については関連性が高いことから、国・県と調整しながら速やかに遂行した。

土木災害復旧室への応援派遣(発足時)

県・市	人
福岡県	4
北九州市	2
福岡市	2
大牟田市	2
筑後市	1
大川市	1
大野城市	1
計	13

出典：八女市



▲査定の様子



土木災害復旧室内▶





▲国道442号 黒木町須崎橋(工事前)



▲国道442号 黒木町須崎橋(復旧工事後)



▲市道内宮～長瀬線 長瀬橋(工事前)



▲市道内宮～長瀬線 長瀬橋(復旧工事後)

生活道路・橋梁の復旧

八女市が実施する道路の復旧工事箇所は315カ所、事業費24億円、橋梁は13カ所、事業費3.5億円となった(P124参照)。福岡県が八女市で実施する道路の復旧工事箇所は95カ所、事業費37億円となった(P124参照)。橋台部分が被災し落橋寸前だった国道442号の須崎橋(上写真)は、応急組立橋を使って平成24年10月3日に応急復旧し、平成25年11月に完全復旧した。山腹崩壊と道路の損壊で通行できな

くなっていた県道八女香春線・星野村三段付近の道路(P126上段の写真)は、平成26年3月に工事を完了して通行止めを解除した。また、県道後川内黒木線・黒木町釈形付近の道路(P127中段の写真)は平成26年1月に工事を完了し、同線・黒木町笠原不動館手前の道路(P127下段の写真)は平成26年12月に工事を完了した。

八女市が実施する九州北部豪雨による災害復旧事業の内容

(単位:億円)

公共土木施設 災害復旧事業			農地・農業用施設 災害復旧事業			林道施設 災害復旧事業			合計	
区分	箇所	事業費	区分	箇所	事業費	区分	箇所	事業費	箇所	事業費
河川	281	38	農地	240	4	林道	63	7.6		
道路	315	24	農業用施設	224	16.3					
橋梁	13	3.5	計	464	20.3					

出典: 全国治水砂防協会発行『砂防と治水2013.10月号』

土木災害工事復旧事業の進捗状況(平成26年3月31日時点)

事業区分	災害査定箇所数(A)	廃工箇所数(B)	実施対象箇所数(C)(A-B)	実施箇所数(D)	実施率(契約率)(D/C)	完成箇所数(E)	完成率(E/C)
公共土木施設災害復旧事業	609	2	607	479	79%	218	35.9%
農地・農業用施設災害復旧事業	464	34	430	306	74%	95	22.1%
林道施設災害復旧事業	63	0	63	63	100%	32	50.8%
合計	1,136	36	1,100	848	78%	345	31.4%

(平成25年度中完成箇所345箇所)

土木災害工事復旧事業の進捗状況(平成27年3月31日時点)

事業区分	災害査定箇所数(A)	廃工箇所数(B)	実施対象箇所数(C)(A-B)	実施箇所数(D)	実施率(契約率)(D/C)	完成箇所数(E)	完成率(E/C)	年度内完成数
公共土木施設災害復旧事業	609	2	607	607	100%	442	72.8%	224
農地・農業用施設災害復旧事業	464	34	430	430	100%	320	74.4%	225
林道施設災害復旧事業	63	0	63	63	100%	53	84.1%	21
合計	1,136	36	1,100	1,100	100%	815	74.1%	470

(平成26年度中完成箇所470箇所)

土木災害工事復旧事業の進捗状況(平成28年3月31日時点)

事業区分	災害査定箇所数(A)	廃工箇所数(B)	実施対象箇所数(C)(A-B)	実施箇所数(D)	実施率(契約率)(D/C)	完成箇所数(E)	完成率(E/C)	年度内完成数
公共土木施設災害復旧事業	609	3	606	606	100%	606	100.0%	164
農地・農業用施設災害復旧事業	464	43	421	421	100%	421	100.0%	101
林道施設災害復旧事業	63	0	63	63	100%	63	100.0%	10
合計	1,136	46	1,090	1,090	100%	1,090	100.0%	275

(平成27年度中の完成箇所275箇所)

福岡県が八女市で実施する九州北部豪雨による災害復旧事業の内容

(単位:億円)

河川			道路			砂防			合計	
区分	箇所	事業費	区分	箇所	事業費	区分	箇所	事業費	箇所	事業費
単災	63	15	単災	67	23	施設災害	7	1		
改良復旧(助成)	50	119	改良復旧(関連)	28	14	災害関連	13	51		
改良復旧(関連)	5	5								
計	118	139	計	95	37	計	20	52		

出典: 全国治水砂防協会発行『砂防と治水2013.10月号』





▲県道後川内黒木線 黒木町椿原付近(工事前)



▲県道後川内黒木線 黒木町椿原付近(仮復旧工事後)



▲県道八女香春線 星野村三段付近(工事前)



▲県道八女香春線 星野村三段付近(復旧工事後)



▲県道後川内黒木線 黒木町釈形付近(工事前)



▲県道後川内黒木線 黒木町釈形付近(復旧工事後)



▲県道八女香春線 星野村コウモリ岩付近(工事前)



▲県道八女香春線 星野村コウモリ岩付近(復旧工事後)



▲県道後川内黒木線 黒木笠原不動館手前付近(工事前)



▲県道後川内黒木線 黒木笠原不動館手前付近(復旧工事後)



▲県道上横山星野線 星野村柱原付近(工事前)



▲県道上横山星野線 星野村柱原付近(復旧工事後)





▲市道光延～土穴線 星野村(工事前)



▲市道光延～土穴線 星野村(復旧工事後)



▲県道岩野黒木線 黒木町(工事前)



▲県道岩野黒木線 黒木町(仮復旧工事後)



▲市道星野～黒木線 星野村(工事前)



▲市道星野～黒木線 星野村(復旧工事後)



▲市道石原剣ヶ淵線 黒木町(工事前)



▲市道石原剣ヶ淵線 黒木町(復旧工事後)



▲市道川向～滝の脇線 星野村(工事前)



▲市道川向～滝の脇線 星野村(復旧工事後)



▲市道靈巖寺田代線 黒木町(工事前)



▲市道靈巖寺田代線 黒木町(復旧工事後)





▲縦鶴川 矢部村縦鶴付近(工事前)



▲縦鶴川 矢部村縦鶴付近(復旧工事後)



▲龍川内川 星野村天神橋付近(工事中)



▲龍川内川 星野村天神橋付近(復旧工事後)



▲大牟田川 星野村大牟田付近(工事前)



▲大牟田川 星野村大牟田付近(復旧工事後)



▲柏ノ木川 黒木町柏ノ木付近(工事前)



▲柏ノ木川 黒木町柏ノ木付近(復旧工事後)



▲矢部川 津江付近(工事前)



▲矢部川 津江付近(復旧工事後)



▲星野川 上陽洗玉橋付近(工事前)



▲星野川 上陽洗玉橋付近(復旧工事後)



▲笠原川 黒木町きこの村付近(工事前)



▲笠原川 黒木町きこの村付近(復旧工事後)

河川では、護岸などの原形復旧工事のほか、堤防のかさ上げや川幅の拡幅などは、氾濫対策の工事などを行った。八女市が行った河川工事は281カ所に上り、事業費38億円となった。(P124参照)

大牟田川・星野村大牟田地内(P131・3段目写真)では川岸が崩れたため、52mにわたって復旧工事を行った。工事は平成26年11月に完成した。柏ノ木川・黒木町笠原地内(P131・4段目写真)は、崩れた川岸の復旧工事を行い、平成27年9月に完成した。

県が八女市で行った河川工事は118カ所で事業費は139億円となった。(P124参照)

河川の氾濫によって護岸が崩れ、結婚式場等に大きな被害が出た矢部川・津江付近(P130・1段目写真)では、護岸を修復する工事を行い、平成26年5月に完成した。星野川・上陽町北川内地内(P130・2段目写真)では、崩れた護岸の復旧を行い、工事は平成26年9月に完成した。笠原川・黒木町笠原地内(P130・3段目写真)では、両岸が河川によって大きく浸食されたため復旧工事を行い、平成25年12月に完成した。





▲上陽町舟木地区(工事前)



▲上陽町舟木地区(復旧工事中)



▲星野村三段(尾迫)(工事前)



▲星野村三段(尾迫)(復旧工事中)



▲矢部川水系星野川直轄砂防事業 星野村柳原地区(工事前写真はP32)(復旧工事後)



▲黒木町田代地区(工事前)



▲黒木町田代地区(復旧工事中)



▲黒木町下名地区(工事前)



▲黒木町下名地区(復旧工事後)



▲黒木町うどう川(工事前)



▲黒木町うどう川(復旧工事後)

今回の災害により、星野村柳原地区において大規模な斜面崩壊が発生した。その規模は、幅約230メートル、高さ約275メートルに及び、河道閉塞にもなう湛水も起きた。対策工事には高度な技術力を要することから、平成24年10月に国土交通省の直轄砂防事業に採択され、崩壊斜面の安定確保及び河道の拡幅等の対策工事が行われた。

頭部排土工、集水井工、抑止杭工、法面アンカー工、河道拡幅工などを中心に、約32億円の費用を用いて3年がかりで工事が行われた。

完成した年には、地域住民や地元の小学生らとともに完成の式典や植樹式などが行われた。(裏表紙の写真)

### 矢部川水系星野川直轄砂防事業

山林崩壊による治山事業関連については、福岡県が事業主体となつて事業を実施することとなった。県は緊急性の高い10カ所の人家裏及び主要道路などの被災箇所から順次、復旧工事に着手した。被害規模の大きかった黒木町下名地区は、2年後の平成26年5月に工事が完了した。黒木町田代地区、上陽町舟木地区においては4年経つた今も工事が続いている。

なお甚大な被害となつた星野村柳原地区においては国直轄の事業として工事をを行った。

### 砂防及び治山事業



災害査定の結果、八女市が実施する農地農業用施設の災害復旧事業は、工事箇所464カ所、事業費20億3千万となった（P124参照）。  
 また被災した農家には、国や県、市の補助制度や融資制度などが設けられたほか、農業共済による農業災害補償制度も活用された。なお、農地・農業用施設災害については、受益者の意向に基づいた事業であることから、被災農家の復旧工事に対する意向を確認し、こまやかに対応するよう努めた。また被災農家の個別相談会なども実施した。



▲星野村広内棚田



▲黒木町笠原(工事前)



▲黒木町笠原(復旧工事後)



▲黒木町笠原(工事前)



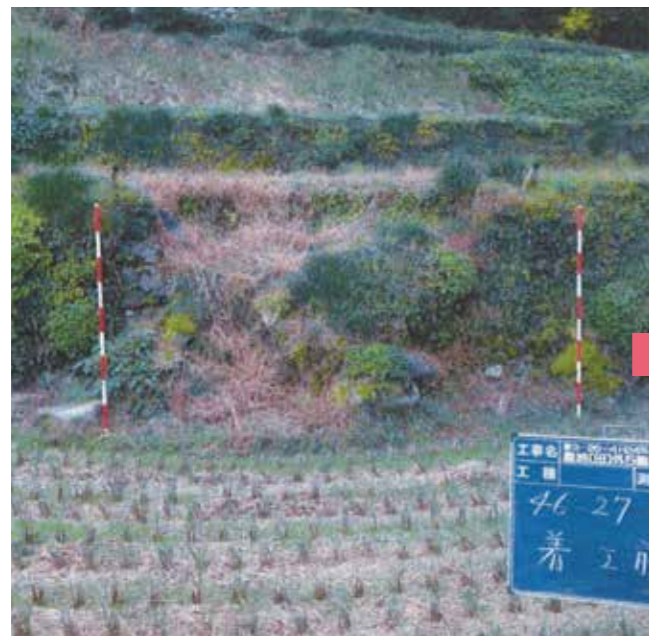
▲黒木町笠原(復旧工事後)



▲黒木町笠原(工事前)



▲黒木町笠原(復旧工事後)



▲黒木町田代(工事前)



▲黒木町田代(復旧工事後)



施設の復旧

土砂崩れが起きた「茶の文化館」は土砂崩れを防ぐ工事を行った。駐車場が冠水した「池の山荘」は土砂の撤去を行った。隣接する山林の土砂崩れが起きた「星の文化館」は、土砂立木の撤去を行った。「ホタルと石橋の里公園」は護岸工事を行った。木製の橋が流出した「南仙橋」は柵を設けて転落防止を図った。がれきで埋まっていた宮野公園はがれきを撤去し、使えるようになった。グラウンドの一部が災害ごみの集積場となっていた小・中学校からはごみを撤去し、すべての小・中学校が9月から通常に開校した。



▲黒木町きのこ村キャンプ場



▲黒木町南仙橋(流出)



▲星野村茶の文化館



▲星野村池の山荘駐車場



▲上陽町ほたと石橋の館



▲宮野公園



▲星野村狸穴(工事前)



▲星野村狸穴(復旧工事後)



▲星野村茶屋ヶ谷(工事前)



▲星野村茶屋ヶ谷(復旧工事後)



▲星野村字イラノ迫(工事前)

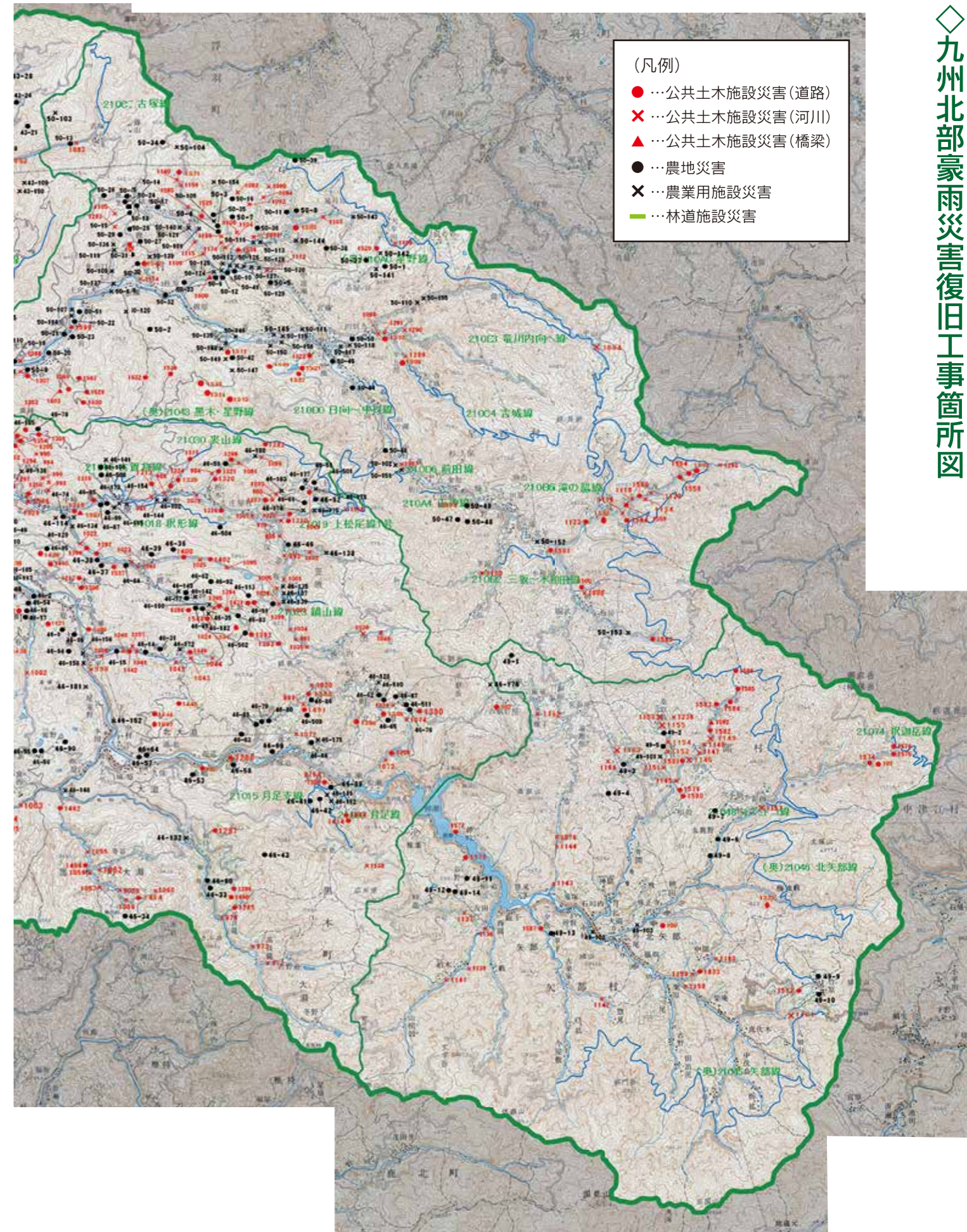
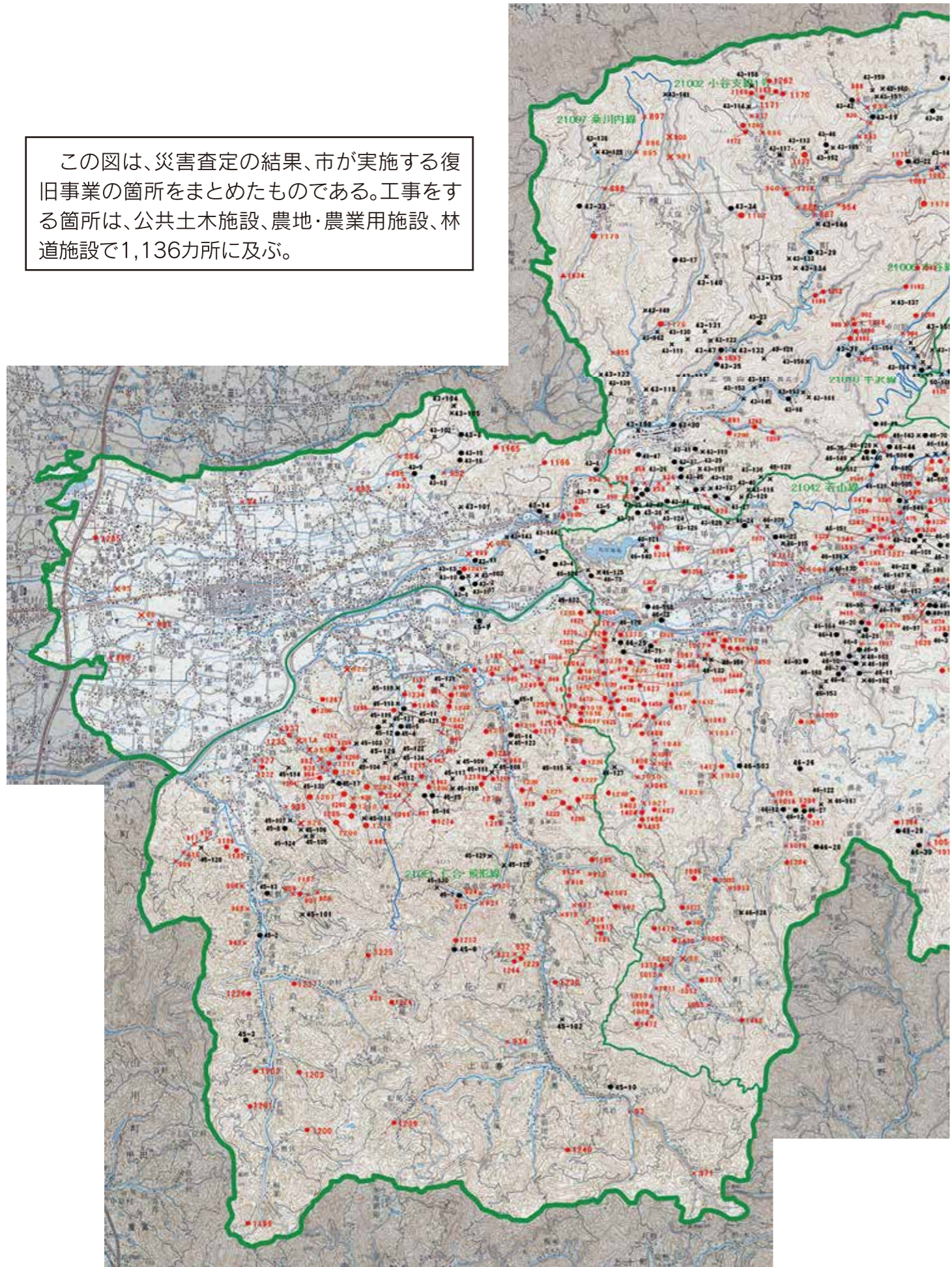


▲星野村字イラノ迫(復旧工事後)



- (凡例)
- …公共土木施設災害(道路)
  - × …公共土木施設災害(河川)
  - ▲ …公共土木施設災害(橋梁)
  - …農地災害
  - × …農業用施設災害
  - …林道施設災害

この図は、災害査定の結果、市が実施する復旧事業の箇所をまとめたものである。工事をする箇所は、公共土木施設、農地・農業用施設、林道施設で1,136カ所に及ぶ。



出典：土木災害復旧室